

都市再生整備計画 事後評価シート
新山口駅周辺地区

平成27年3月

山口県山口市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県		市町村名	山口市		地区名	新山口駅周辺地区			面積	16ha		
交付期間	平成23年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	520百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(新山口駅南北自由通路)									
			提案事業	事業活用調査(交通量調査、事業効果分析)									
			事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した	基幹事業	-				-		-				
	新たに追加した事業	提案事業	事業効果分析				事業効果分析を実施することから、項目を追加		事業活用調査の追加であり、成果目標・指標の変更はない。				
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	平成23年度～平成26年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	新山口駅乗降者数	人/日	14,730	H20	16,300	H26	モニタリング	評価値	達成度			達成見込み
	指標2	駅南北間の歩行者交通量	人/日	1,991	H20	2,240	H26		15,088	△	あり	交通結節拠点整備が事業中であることから、従前値からの改善は見られるものの、交通アクセス機能の強化・利便性向上とそれによる乗降者数増加という当初期待した効果が事後評価実施時期までに発現されなかった。	平成28年7月
	指標3	公共交通機関の乗り継ぎの利便性等の満足度	%	53	H21	64	H26		1,845	×	あり	交通結節拠点整備が事業中であることから、南北間の新たな往来が誘発されず、駅南北間の歩行者交通量の増加という当初期待した効果が事後評価実施時期までに発現されなかった。	平成27年11月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	駅前広場整備に対する期待度	点 (5点満点)	-	-								
	その他の数値指標2	南北自由通路整備に対する期待度	点 (5点満点)	-	-								
	その他の数値指標3	駅周辺のにぎわい創出に対する期待度	点 (5点満点)	-	-								
4) 定性的な効果発現状況	・新山口駅表口駅前広場整備について検討する市民ワークショップ参加者間で駅前広場の活用・運営・管理まで見えた主体的な検討がなされ、駅周辺のまちづくりへの参加意欲が醸成されている。												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	実施なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた				-		
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-		
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-		
	住民参加プロセス	新山口駅表口広場づくりを考える市民ワークショップへの開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた				-		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	持続的なまちづくり体制の構築	「新山口駅北地区重点エリア整備方針」に沿った民間主導による機能導入の促進				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			
		新山口駅表口広場づくりを考える市民ワークショップへの活動開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			

様式2-2 地区の概要

新山口駅周辺地区(山口県山口市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 内外が交わる結節点としての優れた特性を活かした、にぎわいの創出 目標① 山口県の玄関としての快適かつ個性的な都市空間の形成 目標② 新山口駅南北の一体性の確保の促進とたまり空間の創出 目標③ 新山口駅を中心とした交通結節・アクセス機能の強化		新山口駅乗降者数	単位:人/日	14,730	H20	16,300	H26	15,088	H25
		駅南北間の歩行者交通量	単位:人/日	1,991	H20	2,240	H26	1,845	H26
		公共交通機関の乗り継ぎの利便性等の満足度	単位:%	53	H21	64	H26	53	H25
		駅前広場整備に対する期待度	単位:点	—	—	—	—	4.43	H26
		南北自由通路整備に対する期待度	単位:点	—	—	—	—	4.49	H26
		駅周辺のにぎわい創出に対する期待	単位:点	—	—	—	4.22	H26	
 表口駅前広場(事業中)(関連事業)									
 表口駅前広場(事業中)(関連事業)									
 構内エスカレーター設置(事業中)(関連事業)									
 南北自由通路(事業中)									
 橋上駅舎(事業中・外観)(関連事業)									
 橋上駅舎(事業中・内部)(関連事業)									
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・移動円滑化施設等整備事業の実施を通じ、高齢者・障がい者等の利用に配慮した駅施設の利用環境が整備された。 ・継続して取り組むべき課題として以下が挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> 一駅前広場等の整備による県の玄関としての魅力的な空間の形成。 一新設南北自由通路の整備による駅南北地区の移動性向上、たまり機能、休憩機能の導入による回遊性、快適性の創出。 一駅前広場、南北自由通路の整備による交通アクセス機能や乗り換え利便性など交通結節機能の強化。 一情報提供機能の充実による駅利用者、来街者の円滑な移動の実現。 ・新たにに取り組むべき課題として以下が挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> 一小郡都市核の形成に向け、交通結節点整備に続く段階的整備の第2ステップとしての市街地の形成。 一駅を核とした周辺地域へのにぎわいの波及、まちとしての一体性の確保。 一駅舎から駅前広場、駅からまちへの移動においても快適に移動できるような交通結節・アクセス機能の強化。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>駅前広場の整備を引き続き推進し、県の玄関としての魅力的な空間形成の早期実現を図る。</p> <p>新設南北自由通路の整備を引き続き推進し、駅南北地区の移動性向上、一体性の創出を実現する。</p> <p>新設南北自由通路の整備と合わせてたまり機能、休憩機能を導入し、利用者の回遊性、快適性を創出する。</p> <p>駅前広場、新設南北自由通路の整備を引き続き推進し、公共交通機関間の乗り継ぎ利便性の向上を図る。</p> <p>駅舎内だけでなく、駅舎から駅前広場、駅からまちへの移動においても快適に移動できるような空間整備を図る。</p> <p>公共交通や観光情報等の情報提供機能の充実により、駅利用者、来街者の円滑な移動を実現する。</p> <p>小郡都市核の形成に向け、交通結節点整備に続く段階的整備の第2ステップとして、市街地の形成に取り組む。</p> <p>回遊ネットワークの形成により駅から周辺地域へのにぎわいを波及させる。</p> <p>駅周辺を含む新市街地における一体性のある空間形成を進める。</p>								